

2020.09.06 なぜこの教会は閉鎖しないのか（新約聖書：第一テモテ 3章 14節～16節）

https://www.youtube.com/watch?v=Bu0cJ7_45Jg

おはようございます。「第一テモテへの手紙」を通しての 聖書の学びへようこそ。日曜日の朝、第二礼拝では、聖書を書ごと、章ごと、節ごとに学びます。今日は、主の御心ならば、「第一テモテへの手紙」の第3章を終える予定です。14節から16節になります。教会の皆さん、どうぞお立ちになり、私が読むのについてきてください。オンラインでご覧の皆さんも、同じようについてきてください。ご起立なさりたく場合や難しい場合は、お座りのままで大丈夫です。使徒パウロは、テモテに手紙を書き、聖霊によってこう言っています。

第一テモテへの手紙 3章

14 わたしは、間もなくあなたのところへ 行きたいと思いながら、この手紙を書いています。

15 行くのが遅れる場合、神の家で どのように生活すべきかを知ってもらいたいのです。神の家とは、真理の柱と土台である、生ける神の教会のことです。」

16 信心の秘められた真理は 確かに偉大です。すなわち、『キリストは肉において現れ、“霊”において義とされ、天使たちに見られ、異邦人の間で宣べ伝えられ、世界中で信じられ、栄光のうちに上げられた。

すごいですね。祈りましょう。主よ、ありがとうございます。 なんとということでしょう。あなたのものであるこの教会に感謝します。ここにあなたの民に感謝します。今日、私たちに与えられている、あなたの御言葉、この箇所を感謝します。主よ、あなたの御言葉は生きており、それはこの箇所でも明らかです。あなたの御言葉は、常に 私たちがまさいに状況に語りかけ、とても鋭いです。それは、骨と骨髄、魂と霊の間を 外科的に刺し通すことのできる 両刃の剣よりも鋭いのです。主よ、今日あなたの御言葉の中で過ごすこの時に、ただ、それを行ってください。主よ、どうか私たちの心の奥深くまで、ご自由にお立ち入りください。あなたの御言葉をどうぞお教えてください。 イエスの御名によって祈ります。アーメン。

どうぞお座りください。 ありがとうございます。私は今日、次のことについて お話ししたいと思えます。この教会の牧師として、それは、私にとって深い特権であります。なぜ私がこの教会を閉鎖しないのか。はい、主を讃えます。（拍手）一つだけはっきりしておきたいのは、私の意図は決して、閉鎖することを選択した牧師や教会を 非難するわけでも、中傷するつもりでもない ということです。ここにいらっしゃる皆さんの中には、閉鎖されている教会から 来られている人もいます。私たちはそういった方々を 心から歓迎します。どうかくつろいでお過ごしください。ここからが本題です。もし主が、教会を閉鎖するように彼らを導いており、彼らが主に従っているのであれば、それは私にとって何を意味するのでしょうか？ お分かりですか？ 実はそれは両方に言えることです。

「ヨハネの福音書」21章 21節から 23節を 聞いてください。これは主がこの件に関して、私に語ってくださったことです。

ヨハネの福音書 21章

21 ペテロは彼を見て、『主よ、この人はどうなのですか』とイエスに言った。

22 イエスは言われた。『わたしの来るときまで 彼が 教会を”開けておく” ことを...』ではなく、『生きていることを、わたしが望んだとしても...』」

そう JD 訳に書いてあるのですが。

「『わたしが来るときまで彼が生きるように、わたしが望んだとしても、あなたに何の関りがありますか。あなたは、わたしに従いなさい。』」

それで、（これは興味深いです） …という話が（噂が）広まった。…」 「え…?! 聞いた?!」

23 それで、その弟子（ヨハネ）は 死なないという話が兄弟たちの間に広まった。しかし、イエスはペテロに、その弟子は死なないと言われたのではなく、『わたしが来るときまで彼が生きるように、わたしが望んだとしても、あなたに 何の関りがありますか』と言われたのである。」

なぜ私はこれを話したのでしょうか？ それは、あなたが主に従っているからです。私たちが教会を開けたままにしても、それはあなたに何の関係がありますか？ 私たちについて批判したり 悪口を言ったりしないでください。 私たちもあなたについて批判したり 悪口を言ったりしませんから。さあ始めます。悲しいことですね。繰り返しますが、 またしてもこうなってしまいました。皆さんに、私の受信トレイを見せてあげたら... 見たくないでしょう。ああ、ただおかしいです。クレイジーです。繰り返しますが、「預言アップデート」でそれについて話しました。混乱の著者は、欺瞞によって生み出された混乱です。サタンは欺きのマスターです。欺瞞は、今の分裂が起きている原因の 混乱を引き起こしており、最終的には破壊につながります。既にその兆候は見受けられ、まさに彼の脚本通りです。私は、こんな日が来るとは思いもしませんでした。それは、この教壇の後ろに立ち、イエス・キリストの教会を開けておくことに対して 自分の立場と信念を説明し、 その立場を守らなければならないということです。そんなことが起こるとは まったく想像もしていませんでした。しかし、それが実際に起こっているのです。私の意図は、私自身の信念を 説明することです。それは、この教会に関することです。今日、私たちに与えられている聖句から 読み取ります。私が、神の御言葉を愛する理由はこれです。皆さんも、それが真実であるをご存知でしょう。あなたが人生の中でどこにしようと、そこが神の言葉においてもあなたがいる場所であるということです。神の御言葉は、あなたが神の中で、 また人生の中で、どこににいるかに応じて 語りかけるのです。なぜなら、神の御言葉は生きており、力を発揮するからです。活動的にするのです。今日私たちに与えられている箇所が、まさにその良い例です。以下は、9つの真理です。多いように聞こえますね。そんなことはありません。2時から3時頃までには 終えることができるはずですが、ダメですか？ できるだけ迅速に見ていきますが、急ぎ過ぎたくもありません。今日、主が私たちに用意してくださっているものを、何一つ見落とすたくないからです。これはとても相応しい箇所であり、この箇所を教えることを楽しみにしていました。ところで、一つ言及したいことがあります。これは聖書預言アップデートでもお話ししましたが、「第一テモテへの手紙」4章の中で、これは、主の御心ならば来週になりますが、皆さんは「第一テモテへの手紙」第3章の後に 何が来るかご存知ですよ？ とても興味深いことですが、それは「第一テモテへの手紙」第4章です。第4章の1節で何を話しているか、ご存知でしょうか？ そこには、終わりの時に、いかに 悪魔や悪魔の教義によって、多大な欺瞞が 引き起こされるかが書かれています。これらは、終わりの時に人々を迷わせる 悪魔の教義と霊です。それはまさに、今私たちが 目にしていることです。さて、イエス・キリストの教会と イエス・キリストの人に関する9つの真理。一つ目は、14節と15節の最初の部分にあります。それは教会が生きている神の教会である ということです。ここでパウロは、神の民が教会で どのように振る舞うべきかを 明確にしています。テモテは、教会の牧師です。彼は、ちょうど以下のことに関して 非常に はっきりと、概説、要点を 示したところです。それは敬虔さ、神の目に正しくあることについてです。特に、教会で奉仕することを望む人々のためにです。必要条件があります。彼らには、正しい振る舞いが要求されます。神の目に正しくあるということです。敬虔であるということであり、才能云々ではありません。悲しいことに、最近の多くの教会が これを重要視しています。私は、教会を非難するつもりも 咎めるつもりもありません。教会は、すでに十分非難を受けていると思います。または、ここで言うように、”Buss up” (バスアップ：ハワイでは「メチャクチャ」のスラング) です。私はこの言葉が好きです、バスアップ。しかし、教会の多くは、自らを陥れるように、敬虔さの前に、才能を重要視しています。そのことについては先週お話ししました。パウロは、なぜ敬虔さなのか そして敬虔さとは何なのかについて、詳しく説明しています。これこそが、神の民が教会で振る舞うべき 姿であると。なぜでしょうか。なぜなら それこそ生ける神の教会だからです。神は、ここにいるのです！ ご存知でしたか？ そう信じていますか？

「二人または三人が彼の名によって 集まるところには…」 (マタイ 18:20)

ここには2人以上の人がいると思います。神は、私たちの中にいるのです。「詩篇」16:11を思い出します。私の記憶が正しければ。

「だがあなたは、聖所にいまし イスラエルの賛美を受ける方。」[詩篇 22:3]

だからこそ、称賛と礼拝とは…主は、私たちの称賛の中にいらっしゃるのです。そして、ご自分の教会であるここに、神の民である私たちと共にご生きてくださるのです。ここは生きている神の教会なのです。それをあなたは閉鎖したいと言うのですか？ 申し訳ありません。私は今、冒頭でしたくないと言ったことを やってしまいました。しかし、生きている神がここにいらっしゃり、ここが生きている神の教会であるならば、生ける神の教会に行けない人々は、どこに行けば良いのでしょうか？ 二つ目は、15節の後半部分です。「教会は…」どうかこの箇所をただ読むだけで 終わらせないでください。「それは真実の柱であり、基礎です。」建築に関わっている方、建物の知識がある方、また基礎の大切さをご存知の方、もし基礎がしっかり固められていないと、それは、おしまいだとお分かりでしょう。イエスは、このことについて、「マタイの福音書」でこう言われます。非常に興味深いです。私の記憶が正しければ、「マタイの福音書」7章です。そこで彼は、二人の建築家についての 例えを教えてください。そして興味深いことに、この建築家たちには 沢山の共通点があります。どうやら、二人とも同時に家を建築中で、二人とも同時に同じ教会に行きました。何ですって？ なぜ私とその結論にたどり着いたかと言うと、二人ともキリストの言葉を聞きました。と言うことは、彼らが同じ教会に行って、キリストの言葉を聞いたか、イエスが話すのを 聞いたに違いないからです。これは例えであり、これが例えの要点です。一人の建築家は、砂の上に建てています。もう一人の建築家は、硬い岩の上に建てています。そして、嵐が襲う時、それは「もし」ではなく、「その時」の話です。なぜなら、嵐は必ず襲ってくるからです。

砂の上に建てられた家は倒れました。イエスはそれが大きな倒れ方だったと 仰っています。(マタイ 7:24-27 参照)

しかし、岩の上に建てられた家は倒れませんでした。それは嵐に耐えました。なぜでしょうか。固な岩の基礎の上に建てられたからです。不動なのです。その岩はキリストであり、その岩はキリストの言葉です。実を言うと、それは更に具体的です。なぜならイエスは、砂の上に立てた人は、キリストの言葉を行動に移さなかった、と言っているからです。二人の建築家で、二人の違いはただ一つだけです。二人とも家を建てました。二人ともキリストの言葉を聞きました。しかし、岩の上に建てた建築家は、彼の家が崩壊しなかった理由は、彼が神の言葉を人生の中で 応用したからです。彼は、神の言葉の真理を応用したのです。それが彼の基盤でした。それが教会です。教会こそが基礎です。これは神が定められたものです。それは基盤だけの話です。柱について話しましょう。ここにも幾つか柱がありますね。この柱は残さなければならなかったのです。見えにくくて申し訳ありませんが。まあ私の姿は見えなくても良いでしょう。私は、それほど見た目が良いわけではないので。実は、この建物を改装したとき、ここには沢山の柱がありました。私たちは基本的にそれらを壁に囲みました。もし今もある柱を取り除いていたら、まあ、私たちはここにいないでしょう。この場所は崩壊していたでしょう。柱が、全体を支えているのです。私の意味することがお分かりですか？ まず基礎があります。ところで基礎といえば、驚いたことがあるのですが、私たちがこの建物を購入した時、ここは それは恐ろしいほどに荒廃していました。あの時一緒におられた方は 覚えていらっしゃるでしょう。それを証明する前後の写真さえ持っています。息をのむようなものです。私たちがここを購入後、何人かの人が建物を見にやって来ましたが、彼らは、私の気が狂ったのかと思ったそうです。一体何をしているのだらうと。これが教会になるわけがないと。そう思うのも無理はないと思います。誰だってあの建物を見ればそう思います。それほどクレイジーだったのです。つまり、あれは、その…私たちは、皆さんが今座っているコンクリートの下に 空隙があることが分かったのです。今はもう大丈夫です。ですが、コンクリートとその下の地面の間が、6-8インチ(1インチ=2.54センチ)もありました。だから、私たちは古いコンクリートを取り去らなければならなかったのです。今でもフラッシュバックのように思い出します。それは確か150,000ドル(日本円で約1500万円)ほどでした。強固な基礎を作るために、新しいコンクリートを注がなければならなかったのです。基礎も必要ですが、柱も必要なのです。それらが全体を支えるのです。

教会は柱、キリストの言葉は基礎です。時々誰かに ”How are you holidaying up?” (いかがですか？直訳：どのように持ちこたえていますか？) と尋ねられますね。その意味するところは、あなたが何かを乗り越えている 最中だと言うことです。どのように持ちこたえているのですか？ 私はこう言います。「全然持ちこたえていません。」「持ちこたえてくださるのは、神です。」「彼が柱であり、私の真実です。」それが真理の柱であり、基礎です。こう聞かなければなりません。もし世界が崩壊していて、底が見えているなら、 実際世界は崩壊中で、底が見えていますが、教会に行けなければ、 人々はどこに行くことができるでしょう？ 彼らはどこに行けばいいのでしょうか？ 三つ目は、16 節の最初の部分です。それは、「信心に秘められた偉大さ」です。ここでパウロは、ある意味話を変え、[16 節] 「誰もが認めるように」 (英訳で含まれている箇所) と言います。皆さんの訳の中には、「論争なしで」とあるかもしれませんが。これは、議論の余地なく、疑いの余地なく、 と言うことです。教会とは、信心の奥義が 明らかにされる場所です。それは「何か？」ではなく、「誰か？」であり、 その人物はイエスです。それが教会なのです。そこは、信心の奥義が明らかにされる場所です。これは4つ目に繋がります。それは、イエスが 肉体を持った神だということです。「第一テモテ」3章の終わりにある、この一節は、 実際には賛美歌であったと示唆する人もいます。つまり、それは 本当にメロディーがあるようで、詩的です。私はこれを読むのが大好きでした。 皆さんもそうだと思います。私は、何度も何度も繰り返し、 それを読み続けました。何というか…「わお…！！」力強い！ここに理由があります。偉大な信心の奥義の啓示とは、イエスです。肉体をもって現れ、人となり、インマヌエル (神は私たちと共におられる) という方。ところで、モルモン教徒とエホバの証人は これを信じていません。私が今言ったことと、 ここで神の言葉が語っていることを。ここだけでなく、聖書の至るところを通して、 イエスは神だと書かれています。イエスは神です。彼らはよくこう言います。「彼は神ではない。」「彼は救い主、贖い主です。」私は、モルモン教徒と会話をしてきましたが、 彼らは途中までは皆さんと同じです。「そうです、イエスは主です。 イエスは贖い主です。イエスは救い主です。」「イエスは、か…」彼らは「G... (God)」 とは言えません。彼らはそこで止まるのです。それに反論できる箇所は いくらかもあります。例えば、彼の名前はインマヌエルと 呼ばれるということです。これです。これで解決します。なぜなら、インマヌエルとは 「神は私たちと共にいる」という意味ですから。これで明確です。頭の回転がよくない私でも、理解できます。彼は、肉体をもった神です。「ヨハネの福音書」1章。とても奥深く、とても力強いです。ヨハネはこう書いています。「初めに言(ことば)があった、言(ことば)が肉体となった」と。それはイエスのことです。14 節くらいまでだと思います。今日は何度も自分の悪い記憶力を試してばかりですが、「ヨハネの福音書」1章 14 節だと思います。ヨハネがこう書いています。「ことばは 人(肉体)となって、 私たちの間に住まわれた(※幕屋を建てられた)。」旧約聖書「出エジプト記」の学びの時、 私たちと一緒に学んだ方々は、幕屋の建設について詳しく見ていきました。使用される糸でさえ、その色についてまで 細かく見ていきました。それはイエス・キリストという人を 指し示す、描写でした。何がそんなに魅力的かご存知ですか？ 幕屋は、イスラエル人の陣営のど真ん中に 置かれることになっていました。「民数記」を読み出すと、退屈ですよ？ 民数記 (直訳：数字の書)、 何について書かれているでしょう？ 「数字について」です。一体全体、なぜ私は数字の書を読みたいのでしょうか… 私は数学が好きじゃありません。なぜ私は読みたいのでしょうか？ 聖書の中で最も魅力的な書を！ (アーメン。) それは、6章あたりで始まると思います。今日は、かなり(記憶力)良くやっていますね。朝食も食べていなかったのに。もしかしたら、それが良かったのかも。それで、「民数記」6章あたりでは、 本当に細かく、イスラエルの陣営の数が分かります。12部族ありますか？ そして、彼らはそれぞれ3つの部族ずつ、 4つの宿営に分かれています。西にいる人数、東にいる人数、北にいる人数、南にいる人数が分かります。そして幕屋は イスラエル人の宿営のど真ん中にあります。興味深いことがあります。「民数記」22章に行き着くと、皆さん、その記述に詳しいはずです。バラムという名前の男、そして、彼は数字によって脅威を感じていた バラクという名の男に雇われています。イスラエル人の数の増加によってです。それが民数記(数字の書)に書いてあるこ

とです。それは…このバラムという男は預言者で、彼が誰かに祝福を預言し、宣言するとき、その人たちは祝福されます。なので、もし彼が誰かに呪いを宣言するなら、その人たちは呪われます。そこでバラクは彼を雇い、こう言います。「私はあなたに、イスラエル人に呪いを宣言してほしい」「大金を支払うから。」そしてバラムは、「いいでしょう。取引成立。」そして、彼はロバに飛び乗ります。この物語をご存知ですね？ 私のお気に入りの一つです。私は聖書のすべての話についてこう言っているようですが、しかし、これは私のお気に入りの一つです。なぜなら、人数が増加しているイスラエル人の宿営に呪いを宣言しに行く道中で、彼のロバは彼を止め、彼に話しかけます。そして、それでも十分どうかしているのに、バラムはロバに話し返すのです。これだけで既にこの話が何かを語りかけていることが分かるでしょう。聞いてください。あなたは、神があなたの注意を引こうとされているという印象を受けますか？ そして、バラムは「おい…」とは言いませんでした、しかし、「何をしてるんだ？そんなことはできない」バラムはもちろん、耳を傾けず、前進します。そして、彼は中央の幕屋とイスラエル人の宿営を見ることがきる見晴らしの良い場所に着きます。バラムは彼らにこの呪いを宣言する準備ができていました。しかし、彼の口から出てきたものは、ただの祝福ではなく、それは輝かしい祝福でした。彼はこんな感じで…そして、それはこんな感じで…つまり、彼の口から出てきた言葉を読むと、それは神の民への、祝福に続く祝福です。さて、ここでバラクは、怒り狂います。「私はお前に大金を支払ったのに、なのにお前は…」バラムがここにいて…、想像できますか？ これは実話に基づいているのではなく、実話です。これは文字通り起こりました。想像できますか？ バラムはこんな感じで…「本当に申し訳ありません。何が起こったのか分かりません。こんなこと、今まで起こったことありません。」「私が口を開くと、この祝福が溢れ出すのです。」バラクは、「いいだろう。きっと場所が問題なんだろう。」「より高いところへ、より高い山へ行こう。そして、もう一度試してもらいたい。」「たぶん、あなたはすべてを見渡せる場所に いるべきなんだ。」なぜなら、イスラエル人の数はそれほど膨大だったからです。この陣形で、何十万人もの民が宿営していたのです。男性、女性、子どもも数えれば、100万人以上の可能性を示唆する人もいます。なので、それは膨大な数の人々です。「さあ、お前が彼らを見渡せる、さらに高い山頂へ行こう。そしてそこで、彼らに呪いを宣言しよう。」そして、彼らは行きます。私は、その時ロバが何を考えていたのだろうと、疑問に思っています。ロバが何を考えているのか疑問に思うとは、考えたこともありませんでしたが…おそらくロバは、これは上手くいかないかと思っていたでしょう。実際上手くいきませんでした。彼らは、ある頂上、山頂の見晴らしの良い場所へ行き、そして当然、呪いの代わりに彼の口から出てきたのは、栄光ある祝福でした。なんということでしょう。それは上手くいかないのです。そしてそれには理由があります。ここに幕屋があります。それは、十字架のように形成された宿営のど真ん中に、イエス・キリストの存在があるようなものです。従って、今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることも、罪悪感も、呪いもないのです。(ローマ8:1、民数記22章参照)ローマ人が、十字架処刑を思いつく前に既にあった、イエス・キリストの十字架、イエス・キリストという人。それが理由です。私は何を意味しているのでしょうか？それが教会だということです。地獄の門は、教会に勝つことができません！ここは生ける神の教会です。イエス、キリスト、肉体を持った神は、私たちの中に宿営と幕屋をお持ちなのです。イエスは、私たちのど真ん中におられるのです。それが本当か試されたいですか？どうぞお試しください！その前に、バラムが試した時にどうなったか、彼に尋ねた方がよいかもかもしれません。あるいは、彼のロバに聞いてみると良いでしょう。きっと全て話してくれるはずで。五つ目は、興味深いです。パウロは、聖霊の宣言が証明であったと言っています。皆さんの訳の中には、「正当化される」とあるかもしれませんが、これは少し厄介な表現です。私はあえて厄介(Gnarly)という言葉を使います。それは古い言葉だと私にいう人がいました。そうですね、私は老人ですから。「とても80年代っぽい」と。それで結構です。どうだって良いです。なぜなら、「正当化される」と言うと、イエスが正当化されなければいけなかった、と言う意味になるからです。そうではありません。

しかし、「証明される」と言うと、全ての意味合いが変わります。彼は証明されたのです。イエスが神の御子であったということ、そして今でも 変わらず神の御子であるという宣言によって 証明されたのです。天の父を喜ばせる神の御子です。更に興味深いことに、これは次の箇所と繋がりますが、パウロは、「イエスは天使たちに見られる」と言っています。どういう意味でしょう？ この箇所が興味深いには 幾つかの理由があります。少なくとも、天使たちが見ていたこと、それも注意深く見ていたということです。そして、イエスを通して神の驚くべき、奇跡的な顕現を目撃しました。なんて光景でしょう。これは、天使たちが私たちの行動と 神の永遠の計画の展開を、注意深く見ていることを 示唆しています。これはパウロが「第一コリント」4章9節で 言うことです。こんな風に思ったことはありませんか？ 深くは触れませんが、霊的な領域には、今、天使がたくさんいます。そして、天使たちは私たち、そしてこの神の教会を見守っています。彼らは、ただ見ているだけでなく、観察し、学んでいるのです。「ルカの福音書」15章で、イエスはこう言います。「誰かが悔い改めて救われると、天使たちは大喜びする。」と。これが私が思い描くことです。それは、天使たちが見ていて、このようにして…今もきっとそうしているはずですが。皆さんに変な思いをさせていないと いいのですが。しかし、これが霊的な領域で起こっていることです。彼らは驚愕します。いくつかの翻訳で そう表現されているように。彼らはただ驚愕するのです。そして、私たちは天国に行くと、天使を裁くことになるのです。彼らはおそらく私たちを見ているでしょう。そして、「私を裁くのが彼ではありませんように。」「彼女ではありませんように」「彼は良さそうな人だから、彼がいい」などと思っていることでしょう。しかし、彼らは私たちのことを学び、観察し、私たちを見ているのです。イエス・キリストの教会として、そしてイエス・キリストの人として どう振る舞うかと。なぜなら、そのことに 私たちの永遠はかかっているからです。天への入り口と永遠の命の賜物は、以下のことに基づいています。それは、イエス・キリストの人として どう振る舞うか、ということです。天使たちはそれを知っていて、それ（私たちの振る舞い）を観察し、注意深く見えています。彼らは学び、そして驚愕するのです。それはまるで…このように言いたくはありませんが、私はこう見ます。彼らは頭を掻いていると思うのです。（不思議に思っているのです。）「なんてことだろう」「彼らが知ってくれていたら」そして驚嘆するのです。彼らは、私たちを見てただ驚愕するのです。彼らは…私は、私を見守る天使がいると知っています。彼らは恐らく全ての髪の毛がなくなるほどに 頭を掻いたことでしょう。彼らはただ…つまり…なんてことでしょう。彼らが常に私たちを観察しているということは、とても驚くべきことです。さて、七つ目はとても現実的です。本当に現実的です。なぜなら、イエスのことが国家間で 宣べ伝えられているからです。もし、なぜこの神の教会の扉を閉めないのかについて、主要な理由は何かと聞かれたら、これこそがそれです。繰り返しますが、これは教会を閉鎖した牧師に対する 非難ではありません。私はただ…イエス・キリストの福音とイエス・キリストの人に 見られる救いが、国家間で宣べ伝えられていること。それは私には十分すぎるほどの理由です。こう話すと皆さんには、私の率直な意見を許していただけると 思いますが、教会を閉鎖することは、迷い死にゆく世界に どのようなメッセージを送っているのでしょうか。金融危機が起きた、2008年のことを思い出します。覚えていますか？ なんということだったでしょう。悲しいことに、特にキリスト教の テレビ番組やラジオで、人々は…ところで、皆さんは絶対に、私たちのどんな放送の終わりにも、お金を求める嘆願を聞くことはありません。もし耳にされたら、それは私たちではないので、すぐに私に知らせてください。しかし、テレビやラジオでこれらの嘆願をする ミニストーリーがありました。「私たちはこの金融危機に見舞われ、放送を続けるためにあなたの 愛の贈り物が必要です。」と。それに対する私の反応は、「それなら放送を止めたらいいいじゃないか。」冷たいですか？ しかし、あなたが送っているメッセージはこうです。「この金融危機は、大恐慌以来最悪の事態で、神も影響を受けました。」言い過ぎですか？ そんなことはないはずです。私たちは神を代表しているからです。イエス・キリストの教会は イエス・キリストの代表です。こんな風に言うのは愚かだとは思いますが、私たちはイエス・キリストの広告塔です。そこであなたがこう話し始めます。「ああ、この金融危機は本当に最悪ですよ。丘の上に千々の家畜をお持ちの神（詩

篇 50 : 7) も大損失を受けています。」 「え、神は破産したのですか？」 と、これらの人々の話を聞くと、 そう思うてしまうでしょう。さて、2020 年に早送りさせてください。 なんという年でしょう。どんなメッセージが送られているのでしょうか？ 「このパンデミックは、神よりも大きいです。」 ご辛抱ください。 私の言うことを無視しないでください。どうか聞いてください。あなたは教会を閉じます。繰り返しますが、それが私と何の関わりがありますか。 あなたと何の関わりがありますか。あなたが教会のドアを閉めること。 それはこう言っているのです。「これは本当に深刻です。とても深刻なので、教会を閉鎖します。」 ちょっと待ってください。はっきりさせてください。天国の神は、イザヤはこう言います。

「私は御座に座られている主、 (神殿いっぱい広がっていた) 衣の裾、 そして栄光を見た。」 (イザヤ書 6 : 1 参照)

言葉では説明できません。彼は、ただ神を称賛していました。しかし、彼が言ったことに注目してください。

「わたしは、高く天にある御座に 主が『座して』おられるのを見た。」 (イザヤ書 6 : 1)

「一体どうしたらいいんだろう？」 と、御座の前を行ったり来たり するようなことはありません。それが愚かな描写であることは承知です。しかし、想像できますか。 あなたが祈り、主の御名前を呼び、主に助けを求めるとき、そして、あなたは「ああ主よ」と祈ります。すると主の返事は…「何だ!？」 私たちは、「お、お忙しいですか？」 そんなことはありません。「主よ、私は何をすべきか分かりません!」すると主は、「私もだ!これはひどい!」私が言おうとすることは お分りいただけだと思います。これ以上は…もちろんできますよ! もっと続けれます。ご存知でしょう。つまり…私は理解できます。本当です。主は私の心をご存知です。この世界、そして迷える人に対する証人になりたいと思っている人がいます。そして、「これが『私たちは気にかけている』 と言うことを示す方法です」そして、「これが神が人々を救いに導く手段として お使いになることを望んでいます。」と。「クリスチャンは思っていたほど悪くないな」「カネオへの Windward 方面にある教会の人々は 何か違う。彼らは、打ち解けやすく、フレンドリーで 柔軟性がある。」分ります。誤解しないでください、よく分ります。神は何でもできます。主に難しすぎるものはありますか? しかし、ここに私の個人的な信念があります。それは、よりパワフルで、より強い証は、彼らが信念を見たときだということです。そして彼らはこう言います。「ちょっと待って、この教会は…」私たちの教会はすでに通報されています。今朝警察が来ました。人々はいつも私たちを通報します。アーティ・ケンドールがここにいるのはそのためです。彼はいつも、” Hey Bruddah!” (親しい人を呼び合う”Brother”(兄弟)の ハワイスラング) とともに、もし私たちを通報したければ、どうぞご勝手に。気にしません。教会を開けておくことによって発信するメッセージは、「あなたは、私たちが仕えている神を知らない。」申し訳ありませんが、ここに誤解があるかもしれません。なぜならあなたは、教会は、 教会を開ける特権を与える政府に従うべきと思われるからです。いいえ、違います。それは政府、もしくは国家によって 与えられた特権ではなく、 神によって与えられた命令です! (拍手) ここが一番重要なところです。彼らはその強さを見ています。それこそが彼らをキリストの元へと 勝ち取るものです。使徒パウロに尋ねてみてください。カイザルの一族全員を キリストの元へと勝ち取ったのは、彼の強さのおかげではなかったのでしょうか? 「ピリピ人への手紙」を読むと、パウロはピリピの教会に手紙を書いています。彼はこう言っています。「ねえ、君たち。カイザルの一族に、私の愛を伝えてください。」 (ピリピ人への手紙 4 : 22 参照) 「何だって?! カイザル?!」—はい! 「彼らがキリストに立ち返った?!」—はい! 「どうやって?!」—おお、それは…ローマ市民として、彼の法的権利を行使した 使徒パウロの強さです。彼らは、自分たちがローマ市民を殴り、 鞭打っていることを知ったとき、ローマ市民にそれを行うことは法律に 違反していたので、それは彼らの注意を引きました。パウロはこう言います。「すみません、私はローマ市民です。」 (使徒の働き 22 : 25 参照) 「あなたにこれを行う法的権利はない。」ですから彼は、カイザルに訴えます。私は、神がそれをされるときの大好きです。パウロはいつもローマに行

きたかったのです。クルーズ船に乗ってではありません。囚人護送用船に乗ってです。しかしともあれ彼はローマに着いたのです。ところで、途中で乗り継ぎがあり、マルタ島で船は停泊しました。そこで全員が救われたのです。それが、神がされる方法です。繰り返しますが、お許しください。私は非難したくはないのです…私に何の関りがありますか？もし彼らが主に従い、主が彼らを導いているなら、主を讃えます！しかし、私と私の教会に関しては… 私たちはこのようにしてキリストの元に人々を勝ち取るのです。ここに来る警察官は、身長6フィート500インチ（約198cm）もあるアーティエを見て、彼らは皆、彼を知っており、良い友達です。彼らは、「やあ、アーティ、元気かい？」「ああ、何があったんだい？」—「すべて順調だよ。」—「そうかい。」「愛してるよ兄弟！」私は彼らも、キリストの元へと勝ち取りたいです。彼らをキリストの元に導きたいのです。世の中は、強さと信念を求めていると思います。そう思いませんか？実際に口にするかどうかに関わらず、すべてのノンクリスチャンがクリスチャンに問いかけている2つの質問があります。「それは本物か？」「それは上手くいくのか？」彼らはあなたが本物なのかどうか知りたがっています。そして、彼らはキリスト教が上手くいくのか、知りたいと思っています。なぜなら、もしそれが本物で、上手くいくなれば、彼らには希望があるからです。もし彼らが、世の中と教会の間に違いや区別を見ていないなら？これがあまり深く踏み込みたくない理由ですが、しかし、教会は世の中を獲得するために、世の中と同じようになってしまいました。私が抱えている疑問は…「もしあなたが世の人と同じであるなら、どうして世の人々は教会にくるだろうか？」何の意味があるのでしょうか？あなたが彼らを獲得するために、彼らと同じようになるなら、もし彼らが来るにしても、何のためにやって来るんですか？教会の中には、賛美と礼拝がナイトクラブやロックコンサートのようなところもあります。なぜなら、世の中と同じようになりたいからです。世の中と繋がっていたいからです。「あなたは私たちの牧師に会うべきです。彼はとてもカッコいい。」もちろん、ここではありませんよ。つまり、彼はイケてて、若くて、スキニージーンズを履いていて、ラテを飲んでる。「わお！」私は絶対そんなことしません。たとえ出来たとしても。ちょっと言うただけです。私はそれが、神が私たちを形作られた方法だと思っています。これが最後です。これは最後の最後ですね。次に進んでいきます。しかし私は、神が私たちをそのように形づくられたのだと思うのです。誰かが強い信念を持っているとき、そこには魅力的な強さがあります。「まあ、初めて聞いた。」「めずらしい。」「反対のことは良く聞くけど…」彼らは強い信念を持つ人を見て、彼らが本物であり、上手くいくことを見るのです。磁石に引き付けられる鉄のようだと思います。彼らは引き寄せられ、それが、キリストの元へと彼らを勝ち得るものなのです。「ローマ人への手紙」10章12節から15節。おなじみの一節であると思います。10章13節は、毎週日曜日の預言アップデートで引用しています。しかし、パウロが言っていることを聞いてください。

ローマ人への手紙 10 章

12 ユダヤ人とギリシア人の区別はありません。

同じ主がすべての人の主であり、ご自分呼び求めるすべての人に豊かに恵みをお与えになるからです

13 『主の御名を呼び求める者はみな救われる。』

私たちは皆、それを知っています。私たちはそれが大好きですよ？間違いないです。しかし、彼が次の14節で言っていることを聞いてください。彼はこう尋ねています。

14 しかし、信じたことのない方を、どのようにして呼び求めるのでしょうか。聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。15 遣わされることがなければ、どのようにして宣べ伝えるのでしょうか。『なんと美しいことか、良い知らせを伝える人たちの足は。』と書いてあるようにです。

これはしばしば宣教地へ行く際に当てはまることとして使われます。しかし、本当のところは、これは救う力のある福音を宣べ伝えることです。宣べ伝えられていないなら、人々はどのようにして聞くのでしょうか。そして、彼らが聞きに行く場所がないなら、どのようにして宣べ伝えるのでしょうか？

今では、オンラインで聞ける 技術があることは分かっています。 それについて主を讃えます。確かに私たちは、オンライン教会によって、 祝福を受けてきました。しかし、私たちのオンライン教会から、何人の人がこういうメールや、 コメントをしているのかを、知っていただければ…実際、これは、私たちが受け取るメールや コメントの中で、一番多いものです。「あなた方皆さんは、 どれほどの祝福であるか、お気付きですか？」聖書預言を話し、教えることはもちろんのこと、 神の御言葉を宣べ伝える教会に 行けるといふことが。」彼らは、先何マイルも教会がないような 地球の果てにいる人たちです。そして、たとえ何マイルも離れたところに 教会があったとしても、彼らは御言葉を宣べ伝えません。それでは、彼らはどこに行くのでしょうか？ 彼らはオンラインで参加することを 余儀なくされています。しかし、彼らは痛み、待ち焦がれ、傷ついています。なぜなら、それは一緒ではないからです。これが理由です。私たちは共に集まる (gather) のではなく、 共に組み合わせられる/ ある目的のために集められる (assemble) のです。それは全く別のものです。以前、このことについて話しましたが、どうか我慢して聞いてください。もし私が、ここに時計を持っていて、この説教台の上に、すべての部品を集めたとしても、それは機能しません。それはただの集まり (gather) です。(私たちは) 集まり (gather) ではありません。私たちは組み立てられる (assemble) のです。私がそれらの部品を組み立てるとき、 そのとき、機能するのです。それは機能します。それがキリストの体です。それは機能するのです。色々な部品は、 それらが一緒に組み立てられるときに、 機能するのです。「使徒の働き」2章42節について考えます。 私は、それを教会の食卓の4本足と呼びます。パウロがこう言ったと、ルカが書いています。「この食卓には4つの足がある。」神の言葉である使徒たちの教えがあり、祈りがあり、パンを裂くこと、これが聖餐、愛の饗宴。そして、分かち合い/ 親交です。私たちには、分かち合いの時間が必要です。 私は木曜日の夜に、このことについて話しました。もう一度、大胆に言います。このソーシャルディスタンス (社会的距離)、 それは悪魔的です。その理由がお分かりですか？ 私たちがハグをせず、お互いに触れ合わない…？そうすると、私たちは、神が私たちのために 創造して下さったものを奪われてしまうのです。木曜日の夜に、これをお話ししました。1900年代初頭に、ある孤児院がありました。そこにいた赤ちゃんは皆死にかけていて、 その原因は不明でした。彼らは専門家や医師たちを連れて来るのですが、 彼らは、「どうなっているんだ?!」「この赤ちゃんたちは今にも死にかけているのに、なぜなのか分からない。」彼らが気づいたのは、 赤ちゃんたちが死にかけていたその理由とは、彼らはたった一人でベビーベッドの中にただで、 誰にも触れられていませんでした。私たちが触れ合い、抱き合って挨拶し、 聖なるキスでお互いにキスをするとき、その時、オキシトシンと呼ばれる物質が放たれます。ところで、オキシコンチン (鎮痛剤) ではありません。それは全く別のものです。オキシトシンは、化学物質の名前だと思えます。エンドルフィンやセロトニンのようなものです。それは神が私たちに与えた 気持ちが良い化学物質です。なので、彼らがこの孤児院で何をしたかという、 彼らはただ赤ちゃんを抱きかかえ、 赤ちゃんを愛し始めました。そして、彼らは二度と死ななかつたのです。さて、これは八つ目に結び付きます。それはイエスが、 世界で信じられているということです。耳にしなれば、 人々はどのようにして信じるのでしょうか？ そして、宣べ伝える人がいなくて、 人々はどのようにして聞くのでしょうか？ 繰り返しますが、私の強い言い方をお許しください。しかし、私たちがこれを信じないなら…？もし私たちに確信がないなら、 そうであるなら、 私たちはどのようにして 世界が信じることを期待できるのでしょうか。繰り返しますが、私に与えられた 素晴らしい特権である、 牧師として神の御言葉の教師としてでさえ、私は本当に、自分の心を主に探っただけよう、 求めなければなりません。なぜなら、皆さんは私を見ていて、 皆さん私を (オンラインで) ご覧になられ、そして、あなたは私の声を聞いていて、 あなたが自問自答しているのは…

「彼は本当にそれを信じているのか?」「あなたが持っていないものを 与えることはできない」と言われます。ウイルスのたとえを使って申し訳ありませんが、 私にないものを、あなたに与えることはできません。そうですね? 言い換えれば、私はまず、 これを自分のものにしなければなりません。それが

牧師としての私の責任です。来週の私の葛藤、試練、困難がどういうものになるか、私はいつでもお伝えできます。それが私が説教の中で話すことだからです。それが、私が直面していることだからです。なぜなら、私が教えることを、まず私に得させるのが、神のお与え方だからです。もしそれが私の人生で本物でなければ、一体全体、どうして皆さんはここにいるのでしょうか？ 実際、去っていただいて構いません。なぜなら、全く意味がないからです。信念がなければ、心からでなければ、私はただ口先だけです。ただ口先だけなら？ それはただの型にはまった説教、缶の中の説教です。そうではなく、そこには本物の個人的な強い確信がなければなりません。なので、あなたがここで私が説教し、教えているのを聞くとき…聖霊があなたに語りかけている感覚があります。「ああ、私は彼が何を話しているのかが、確かにわかる。」「そして、彼が彼自身の人生から、彼の個人的な経験から、あんな風に共有するのは」「それが本物だからだ。」「自分も全く同じことを経験しているから、彼が何を話しているのかよく分かる。」さて、これが最後の一つです。私はこれが大好きです。私はこれよりも良い説教の終わり方は、考えられません。パウロが言っている16節の最後の箇所よりも。「(イエスは)栄光のうちに上げられた。」「もし、これが胸に響かないなら？」皮肉じみていますが、これが、私たちが宣べ伝えていることです。私たちが、毎週語っていることです。教会は、イエスが戻ってくるということを人々が聞ける場所でなければなりません。イエスは栄光のうちに上げられ、私たちを引き上げるため、再び来られます。こういう形で締めさせていただきます。私のメモには書いていないことですが、それは預言アップデートの間に、聖霊によって、私の心に実に響いたことです。「ルカの福音書」21章28節で、イエスがこう言う場面です。

ルカの福音書 21 章 28 節

「これらのことが起こり始めたら、身を起し、頭を上げなさい。あなたがたの贖いが近づいているからです。」

私は先週このことを考えていました。私は、教会内での「私たちは立ち上がらなければならない！」という考え方に懸念を抱いています。「反撃し、取り戻す！」聖書を開いても、そんなことは書かれていないことは確かです。よく聞いてください。それは、「立ち上がる」のではなく、「見上げる」のです。それは、「取り戻す」ではなく、私たちは「取り去られる」のです。それが、私がここで（聖書で）読んだものです。興味深いのは…、はい、これが最後の最後です。私たちは「第一、第二テサロニケ」でこれを見ましたね？ そして、テサロニケ教会への手紙は、使徒パウロが書いた最初の手紙でしたか？使徒パウロが初めて福音について語っている箇所です。それは、「イエス・キリストは来られて、十字架にかけられ、葬られ、復活し、そして携挙の時に戻ってこられる」という福音です。なぜそれが興味深いのでしょうか？なぜなら、テサロニケの教会は若い信者がいる教会だったからです。「使徒の働き」から分かることは、実は使徒パウロは、少なくとも三週間、つまり安息日を3回ここで過ごしました。「使徒の働き」からそれが分かりますが、長くても三週間ほど、あるいは最長でも一ヶ月そこそこで、彼は町から追い出されています。だからこそ、彼は戻ることを懇願していたのです。パウロは彼らをととても愛していました。彼がその教会を始めました。ここは、新しい信者の新しい教会でした。そして、パウロには彼らに聖書預言を教える大胆さがありました。「パウロ、ちょっと！」「彼らは新しい信者ですよ！彼らにそれを教えることはできません！「あなたは彼らにこう言っているのですか？」「彼らはキリストの元に来たばかりなのに、『キリストが戻ってきて、教会を携挙される』と？」「いいえ、それはもっと成熟し、熟練した信者のための教えですよ。」そんなことはありません！彼らは新しい信者です！パウロは福音を宣べ伝えています。そして、イエス・キリストが戻って来られることは福音なのです！福音とは、彼が後でコリント人に書いているように、『イエスが来られ、十字架につけられ、葬られ、復活された』というだけではありません。「それだけ？」となります。「あとは自分たちでやるの？」—ああ、私は自分の役目は果たした。違います。イエスは十字架につけられ、埋葬され、復活し、そして、彼は戻ってきます！それが福音です！良い知らせです！私がこう言えるならば、教会は、「福音のすべてを宣べ伝える場所」であるべきです。そして、イエス・キリストが

戻って来られることが 教えられるべきです。だからこそ、私たちは教会の扉を開けたままにしているのです。どうぞお立ちください。主よ、ありがとうございます。ああ、なんということでしょう。主よ、本当に感謝します。これを書くよう、使徒パウロを奮い立たせてくださって ありがとうございます。そして約 2000 年後の私たちのために 聖書にこれが含まれていることを感謝します。あなたの教会にいる私たちのための、このあなたの言葉によって、私たちは本当に励まされ、力づけられます。主よ、落胆し、うつむいている人のために祈ります。もしかしたら、それは、起こっている すべてのことへの絶望かもしれません。なんということでしょう。主よ、この教会が聖所となり、あなたの羊が養われ、成長するための 安全な場所、安全な牧草地となることを祈ります。主よ、あなたがもうすぐ戻って来られるという希望、祝福された希望に感謝します。私たちはそれがもう間もなくだと信じています。あなたが既にそうなさっているように、この教会を祝福してください。私たちは、あなたが祝福し続けてくださることを知っています。あなたは本当に、豊かに溢れるほどに、この教会を祝福してください。私たちの考えや想像をはるかに超えて。聞くまでもなく、それが、あなただからです。主よ、ありがとうございます。この教会を守り、私たちを守ってください、主よ。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7